

資料編

指導・評価計画（全 13 時間）

関：関心・意欲・態度 考：数学的な考え方 表：表現・処理 知：知識・理解

見 通 し	時 間	○ねらい ・学習活動	・支援及び指導上の留意点	○評価項目（評価方法） 十分満足できると判断される状況 努力を要する児童への手立て
見 通 し 1	1	○小数でわることの意味を考える。 どんな式になるでしょう。 ・既習の整数の除法を基に問題の場面を図に表現して考える。 （数量化、図形化の考え方） $200 \div 2.5$ の式でよいわけを説明しましょう。 ・自分なりの図に表現した方法でつかんだ場面を発表し合うことにより、友達の考えを参考にし、計算が用いられる場面を把握する。 （統合的な考え方）	リボンを2.5m買ったら、代金は200円でした。このリボン1mの値段は何円ですか。 ・リボン1mの値段を求める問題を扱い、除法の意味を「1当たりの量」を求めることに拡張していく。 ・2mで200円のリボンで問題の場面をとらえるようにし、既習の整数の場合を基に2.5mで200円のリボンの場合を考えるようにする。 ・実物を用意してイメージできるようにする。	考：○図を基に既習の整数の除法と数量の関係が同じであることから除法の計算の意味を整数から小数へと拡張して考えている。（発表、観察、ノート） 図を基に既習の整数の除法と数量の関係が同じであることから除法の計算の意味を整数から小数へと拡張して考えその自分の考えを発表している。 実物を手掛かりに問題の場面を図に表現して問題を適切に理解できるようにする。
見 通 し 2	2	○整数÷小数の計算の仕方を考える。 $200 \div 2.5$ の計算の仕方を考えましょう。 ・問題の場面を結果の見通しをもちながら図に表現して考える。 （数量化、図形化の考え方） ・課題を解決する中で気付いたことや分からないことを発表し合うことにより、既習事項を用いたり、計算のきまりを見いだしたりして考える。 （統合的な考え方）	・第1時で取り組んだ問題なので結果の見通しをもつことができている。それを基にどのように計算すれば $200 \div 2.5$ は80になるのかを考えるようにする。 ・第1時で取り組んだ図の中でテープ図や数直線図を取り上げて基にする。 ・$200 \div 2.5 = 80$ $\downarrow \times 10 \quad \downarrow \times 10$ 等しい $2000 \div 25 = 80$ という計算のきまりに図や発表の中から気付くようにする。	考：○図、又は計算のきまりを用いて既習の整数の除法の計算に関連付けて、除数が小数の除法の計算の仕方を考えている。 図と計算のきまりの両方を用いて既習の整数の除法の計算の仕方に関連付けて、除数が小数のわり算の計算の仕方を考えその自分の考えを発表している。（観察、発表、ノート） 分からないことを素直に発表させることにより、友達とのかかわりの中で疑問点を解決する。
見 通 し 2	3	○問題の場面を小数÷小数の式に表すことができ、計算の仕方を理解する。 $7.8 \div 6.5$ の計算の仕方を考えましょう。 ・第3時までの学習を基に計算の仕方を考える。 （類推の考え方）	6.5mの重さが7.8kgの鉄のぼうがあります。この鉄のぼう1mの重さは何kgですか。 ・問題の場面を図に表現して数量関係を把握できるようにする。	知：○問題の場面を表現した図を基に整数÷小数の場合から類推して、小数÷小数の式に表すことができ、計算の仕方を理解することができる。 （観察、ノート、計算プリント） 整数÷小数の場合から類推して問題の場面を小数÷小数の式

		・計算問題に取り組む。		に表すことができ、計算の仕方を理解できる。 問題の場面を図に表現して考えることにより既習事項を思い出せるようにする。
4	○ 除数が小数の除法の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 3.6 ÷ 0.4 の筆算の仕方を考えましょう。 ・ 既習の計算の仕方を基に除数が小数の除法の筆算の仕方を考える。 （一般化の考え方） ・ 除数が小数のわり算の筆算の仕方をまとめる。 ・ 計算練習をする。	・ 筆算の仕方については問題ごとに仕方を口頭で言うなど確実に定着させるようにする。 ・ 商が純小数や被除数に 0 を補う場合に注意する。	表：○ 計算のきまりを用いて整数の除法の筆算に帰着し、除数が小数の除法の筆算ができる。 （ノート、ドリル） 計算のきまりを用いて整数の除法の筆算に帰着し、除数が小数の除法の筆算ができ、商が純小数や被除数に 0 を補う場合も自ら計算できる。 除数が小数の除法の筆算の仕方のどこでつまづいているのかを把握し、個別に支援する。	
5	○ 純小数でわると、商は被除数より大きくなることを理解する。 わる数と商の大きさの関係を調べよう。 ・ 計算したり、図に表現して視覚的にも考える。 （数量化、図形化の考え方） ・ 調べたことを発表し、まとめる。 ・ 問題に取り組む。	1.2m の代金が 240 円の青のリボンと、0.8m の代金が 240 円のリボンがあります。1m の値段はそれぞれ幾らですか。 ・ 一つの場合だけでなく幾つかの場合について考えるようにし、理解できるようにする。	知：○ 計算の結果や図に表現することから純小数でわると、商は被除数より大きくなることを理解できる。（ノート） 計算の結果や図に表現することから純小数でわると、商は被除数より大きくなることを理解し、それを計算せずに式で判断できる。 数直線を使って視覚的に判断できるように支援する。	
6	○ 小数の除法におけるあまりの位取りについて理解する。 小数のわり算のあまりの大きさについて考えよう。 ・ 具体的な場面からどれだけあまるか考える。 （具体化の考え方） ・ 小数の除法におけるあまりの小数点を打つ位置についてまとめる。 ・ 計算練習をする。	2.5ℓ のジュースを 0.7 ℓ の水筒に入れていきます。何個の水筒をいっぱいにできますか。また、何ℓあまりますか。 ・ 式の上だけで考えさせず、あまりの大きさをとらえることができる具体的な場面で考えるようにする。	表：○ あまりのある場合の小数の除法計算ができる。 （ノート、ドリル） 問題の場面や式からあまりの見通しをもって小数の除法計算ができる。 式と具体的な場面を結び付けてあまりの見通しがもてるようにする。	

		○ 小数の除法の答えを概数で表すときの処理の仕方を理解する。 計算の答えを概数で表そう。 ・あまりを出さずに答えを概数で表すことのよさを考える。 (発展的な考え方) ・問題に取り組む。	1.4ℓの砂の重さを量ったら2.6kgありました。この砂 1ℓの重さは何kgですか。四捨五入して、上から2けたの概数で求めましょう。 ・具体的な問題から概数で商を求めることのよさに気付けるようにする。	表：○ 小数の除法の答えを、概数で表すことができる。 (ノート、ドリル) 小数の除法の答えを、必要に応じて概数で表すことができる。身近な例からあまりを出すより概数で答えを出した方がよい場合が判断できるように個別支援する。										
	8	○ 学習内容を確実に身に付ける。 練習問題に取り組もう。 ・まとめの計算練習に取り組む。	・ 除数が小数の除法の学習が一通り終わったところで、計算の定着を図る。	表：○ 除数が小数の除法の学習内容を用いて除法計算ができる。 (ノート) 学習内容を正確に用いて除法計算ができる。 机間指導でつまづきを支援する										
見 通 し 3	9	○ 比較量、基準量が小数のときも、何倍かは比較量 ÷ 基準量の除法で求められるよさに気付く。 何倍になるか考えよう。 ・ 基準量と比較量を確実にとらえるために問題場面を図に表現して考える。 (数量化、図形化の考え方) ・ 図を基にして問題の場면을式に表して、除法を活用して問題解決するよさに気付く。	家から駅までの道のり <table><tr><th>名前</th><th>道のり (km)</th></tr><tr><td>ゆりえ</td><td>2.4</td></tr><tr><td>たくや</td><td>4.8</td></tr><tr><td>みさき</td><td>3.6</td></tr><tr><td>ひろし</td><td>1.8</td></tr></table> ゆりえさんの道のりをもとにすると、ほかの人の道のりは、それぞれ何倍ですか ・ 身の回りの問題を取りあげて、除法を活用して解決することにより、そのよさに気付けるようにする。 ・ 本時の場合の図はテープ図や数直線が適切である。	名前	道のり (km)	ゆりえ	2.4	たくや	4.8	みさき	3.6	ひろし	1.8	関：○ 比較量、基準量が小数のときも、何倍かは比較量 ÷ 基準量の除法で求められるよさに気付き、それを味わっている。 (観察、ノート) 比較量、基準量が小数のときも、何倍かは比較量 ÷ 基準量の除法で求められるよさに自ら気付き、それを味わっている。 テープ図や数直線から具体的にとらえられるように支援する。
名前	道のり (km)													
ゆりえ	2.4													
たくや	4.8													
みさき	3.6													
ひろし	1.8													
見 通 し 3	10	○ 倍を表す数が小数のときも基準量は比較量 ÷ 倍の除法で求められるよさに気付く。 基の量は幾つか考えよう。 ・ 基の量を□として問題場面を図に表現して、分かっていることと求めることを確実にとらえて考える。 (数量化、図形化の考え方) ・ □を用いて立てた乗法の式から除法の式を導いて	生後 10 日の犬の体重は現在 630 g で生まれたときの 1.8 倍です。生まれたときの犬の体重は何 g でしたか。 ・ 身の回りの問題を取り上げて除法を活用して解決することにより、そのよさを味わえるようにする。 ・ 乗法で立式すると、数量を題意のままに順思考で考えることができる。	関：○ 倍を表す数が小数の時も基準量は比較量 ÷ 倍の除法で求められるよさに気付き、それを味わっている。(観察、ノート) 倍を表す数が小数のときも基準量は比較量 ÷ 倍の除法で求められるよさに自ら気付き、それを味わっている。 補助問題として整数倍の場合を考えたり、数直線や数直線以外の図を用いたりして、小数倍の場面が把握できるようにす										

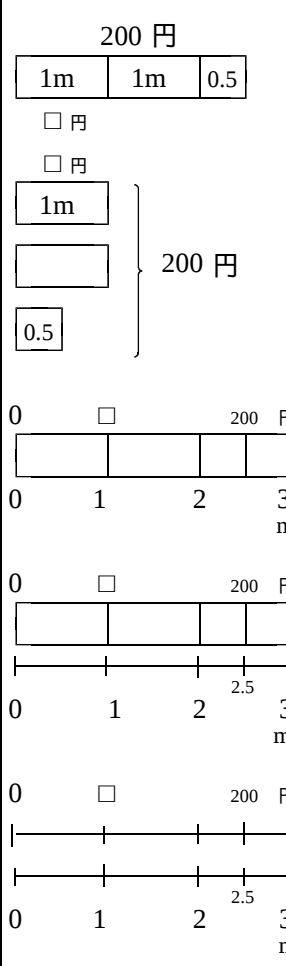
		答えを求め、除法を活用して問題解決するよさを味わう。		る。
見 通 し 3	11	○ 除数が小数の除法の作問ができる。 わる数が小数のわり算の問題を作ろう。 ・ 既習事項を活用して、除数が小数の除法の問題を自分で作る。 (発展的な考え方) ・ できた問題を友達同士で解き合うことにより、除法を活用して問題解決するよさを味わう。	・ 作問は式、答えの見通しをもって考えるようにする。 ・ 作問や友達の問題を解くことにより、一人一人を評価する。 ・ 作問することや友達の問題を解くことから、さらに除法を活用して問題解決するよさを味わえるようにする。	関：○ 友達の問題を除法を活用して解決し、そのよさを味わっている。(観察、ノート) 楽しんで作問したり、友達の問題を除法を活用して解決し、そのよさを味わっている。 問題の場面を具体的に図に表現することにより、作問や問題解決できるように支援する。
	12	○ 学習の評価をする。 ・ テスト ・ 学習後の感想を書く。	・ 児童の理解の実態や児童の思いを把握する。	
	13	○ 補充学習 ・ テストの復習	・ テストでつまずきの多かったところをもう一度学習し直す。	

見通し 1 にかかわる実践（第 1 時）

（１）ねらい 小数でわることを考える。

（２）準備 リボン

（３）展開 ○おおむね満足 十分満足 努力を要する児童への手立て

学習活動	時間	支援及び指導上の留意点	評価項目
整数の除法の問題の場面を図に表現して考える。	10	リボンを 2 m 買ったなら 200 円でした。 このリボン 1 m の代金は何円ですか。 ・初めから除数が小数の場合について考えるのは難しいので、既習の除数が整数の除法の問題に取り組むようにする。 ・実物を提示し場面をイメージして、図に表現できるようにする。	考：○図を基に既習の整数の除法と数量の関係が同じであることから、「1 当たりの量」を求める場面の図を書き、計算の意味を整数から小数へと拡張して考えている。（発表、観察、ノート） 図を基に既習の整数の除法と数量の関係が同じであることから、「1 当たりの量」を求める場面の数直線図を書き、計算の意味を整数から小数へと拡張して考えその自分の考えを発表している。 実物を手掛かりに問題の場面を図に表現して理解できるようにする。
小数の除法の問題の場面を図に表現して考える。 	15	リボンを 2.5 m 買ったなら 200 円でした。 このリボン 1 m の代金は何円ですか。 ・包含除では減加の方法でも答えを導けるので、初めに等分除を扱うことにより小数でわることの意味を十分に思考することができる。 ・整数の除法を基に考える。 ・除数が小数でも整数と同じ形の式が成り立つかどうかを考えるようにする。 ア言葉の式 $\text{代金} \div \text{買った長さ} = \text{1 m の値段}$ に当てはめる。 イ図から考えて 1m は 80 円になる。 ウ 2.5m を 250cm で $200 \div 250$ から考える。 エ $200 \div 2.5$ $200 \div 2.5$ $\downarrow \times 10$ $\downarrow \times 10$ $\downarrow \times 10$ $200 \div 25$ $2000 \div 25$ 整数のわり算にして考える。式からも 80 円になりそうだ。 オ $\square \times 2.5 = 200$ $\square = 200 \div 2.5$ かけ算の逆算として考える。 以上ア～オのような様々な方向から $200 \div 2.5$ で「1 当たりの量」を求められることを考えると予想されるので、児童をよく観察し、発表へとつなげる。	
$200 \div 2.5$ でよいわけを説明する。	20	・自分なりに図に表現した方法でつかんだことを発表し合うことにより、友達の考えを参考にし、様々な見方から除法の計算の用いられる場面を把握できるようにする。	

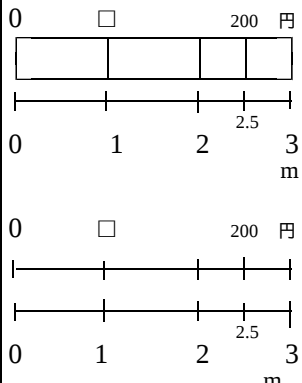
見通し 2 にかかわる実践（第 2 時）

（１）ねらい 整数÷小数の計算の仕方を考える。

（２）準備

（３）展開

○おおむね満足 十分満足 努力を要する児童への手立て

学習活動	時間	支援及び指導上の留意点	評価項目
200 ÷ 2.5 の計算の仕方を図を基に考える。 	15	・ 第 1 時で取り組んだ問題なので結果の見通しをもつことができている。それを基にどのように計算すれば 200 ÷ 2.5 は 80 になるのかを考えるようにする。 ・ 第 1 時で取り組んだ図の中でテープ図や数直線図をとりあげて基に考えさせるようにする。 ・ 児童は次のように間違える場合が多い。 $200 \div 2.5 = \square \xleftarrow{\frac{1}{10}} \begin{matrix} \downarrow \times 10 & \downarrow \times 10 \\ 200 \div 25 = 8 \end{matrix}$ どこが間違っているのか、考えることにより $200 \div 2.5 = \square \xrightarrow{\begin{matrix} \downarrow \times 10 & \downarrow \times 10 \\ 2000 \div 25 = 80 \end{matrix}} \text{等しいので } \square = 80$ に、気付けるようにする。	考：○図、又は計算のきまりを用いて、除数が小数のわり算の計算はわられる数、わる数をそれぞれ 10 倍して既習の整数の除法で計算しようと計算の仕方を考えている。（観察、発表、ノート）
自分で考えた計算の仕方を発表する。 $200 \div 2.5 = \square$ $\downarrow \times 10 \quad \downarrow \times 10$ $200 \div 25 = 8$ $\square = 0.8$ 1m が 0.8 円ではおかしい？	20	・ 発表では分かったことだけでなく、困ったことや分からなかったことも発表させるようにし、話し合いの中でよりよい計算の仕方を見いだせるようにする。 ・ 計算だけでなく、図を基に計算の仕方を確認することにより自分の考えを吟味できるようにする。 ・ $200 \div 2.5 = 80$ $\downarrow \times 10 \quad \downarrow \times 10$ $2000 \div 25 = 80$ } 等しい という計算のきまりを活用することが計算の仕方として、簡単で分かりやすいことに児童の話し合いの中で気付くようにする。	図と計算のきまりの両方を用いて、除数が小数のわり算の計算はわられる数、わる数をそれぞれ 10 倍して既習の整数の除法の計算に関連付けて計算の仕方を考え、自分の考えを発表できる。 分からないことを素直に発表させることにより、友達とのかかわりの中で疑問点を解決する。
適用問題に取り組む。	10	・ 別の問題に取り組むことにより、もう一度考え方を確認する。	

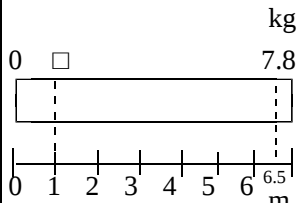
見通し 2 にかかわる実践（第 3 時）

（１）ねらい 小数÷小数の計算の仕方を考える。

（２）準備

（３）展開

○おおむね満足 十分満足 努力を要する児童への手立て

学習活動	時間	支援及び指導上の留意点	評価項目
7.8 ÷ 6.5 の計算の仕方を考える。 	20	6.5mの重さが 7.8kg の鉄のぼうがあります。 この鉄のぼう 1m の重さは何 kg ですか。 - 等分除では立式が難しいので問題の場面を図に表現して数量関係を把握できるようにする。 - 図が正確に書けているか個別に確認する - 第 3 時までの学習を基に計算の仕方を考える。 $\begin{array}{l} 7.8 \div 6.5 = 1.2 \\ \downarrow \times 10 \quad \downarrow \times 10 \\ 78 \div 65 = 1.2 \end{array} \quad \left. \vphantom{\begin{array}{l} 7.8 \div 6.5 = 1.2 \\ \downarrow \times 10 \quad \downarrow \times 10 \\ 78 \div 65 = 1.2 \end{array}} \right\} \text{等しい}$	理：○問題の場面を図を基に整数÷小数の場合から類推して、小数÷小数の式に表すことができ、計算のきまりを活用した計算の仕方を理解することができる。 (観察、ノート、計算、プリント)
0.78 ÷ 6.5 の計算の仕方を考える。 $\begin{array}{l} 0.78 \div 6.5 = ? \\ \downarrow \times 100 \quad \downarrow \times 10 \\ 78 \div 65 = 1.2 \end{array} \quad \left. \vphantom{\begin{array}{l} 0.78 \div 6.5 = ? \\ \downarrow \times 100 \quad \downarrow \times 10 \\ 78 \div 65 = 1.2 \end{array}} \right\} ?$ $\begin{array}{l} 0.78 \div 6.5 = 0.12 \\ \downarrow \times 100 \quad \downarrow \times 100 \\ 78 \div 650 = 0.12 \end{array} \quad \left. \vphantom{\begin{array}{l} 0.78 \div 6.5 = 0.12 \\ \downarrow \times 100 \quad \downarrow \times 100 \\ 78 \div 650 = 0.12 \end{array}} \right\} \text{等しい}$ $\begin{array}{l} 0.78 \div 6.5 = 0.12 \\ \downarrow \times 10 \quad \downarrow \times 10 \\ 7.8 \div 65 = 0.12 \end{array} \quad \left. \vphantom{\begin{array}{l} 0.78 \div 6.5 = 0.12 \\ \downarrow \times 10 \quad \downarrow \times 10 \\ 7.8 \div 65 = 0.12 \end{array}} \right\} \text{等しい}$	15	100 分の 1 の位の小数については扱わないが、ここで取り上げて考えることにより、わる数を整数にすればよいことが分かるようにする。 - 児童は、わる数とわられる数が整数になればよいと考えている場合が多いので、その例を取り上げて計算のきまりを定着させる。 - わる数とわられる数を同じ倍すると商が等しくなることを図でも確かめる。	整数÷小数の場合から類推して、問題の場面を小数÷小数の式に表すことができ、計算のきまりを活用した計算の仕方を理解でき、その自分の考えを発表している。
計算のきまりを活用する問題に取り組む。 7.5 ÷ 1.5 9.6 ÷ 2.4 など	10	計算のきまりを活用した計算の仕方を理解できているか確認する。	問題の場面を図により既習事項を思い出せるようにする。

見通し 3 にかかわる実践（第 9 時）

（１）ねらい 比較量、基準量が小数の時も何倍かは比較量÷基準量の除法で求められるよさを味わう。

（２）準備 学習後の感想を書くプリント

（３）展開 ○おおむね満足 十分満足 努力を要する児童への手立て

学習活動	時間	支援及び指導上の留意点	評価項目										
基準量と比較量を確実にとらえるために問題場面を図に表現して何倍になるか考える。 ひろし　ゆりえ　みさき　たくや 0　　　1.8　2.4　　3.6　4.8 km 0　　　□　1　　□　2 倍	5	家から駅までの道のり <table><tr><th>名前</th><th>道のり(km)</th></tr><tr><td>ゆりえ</td><td>2.4</td></tr><tr><td>たくや</td><td>4.8</td></tr><tr><td>みさき</td><td>3.6</td></tr><tr><td>ひろし</td><td>1.8</td></tr></table> ゆりえさんの道のりを基にすると、他の人の道のりはそれぞれ何倍になりますか。 ・身の回りの問題を取り上げて除法を活用して解決することにより、そのよさを味わえるようにする。 ・本時の場合の図はテープ図や数直線が適切である。 ・図から答えの見通しがもてるようにする	名前	道のり(km)	ゆりえ	2.4	たくや	4.8	みさき	3.6	ひろし	1.8	関：○比較量、基準量が小数のときも、何倍かは整数のときと同様に比較量÷基準量の除法で求められることに気付き、除法のよさについて学習の感想に書いている。 （観察、ノート）
名前	道のり(km)												
ゆりえ	2.4												
たくや	4.8												
みさき	3.6												
ひろし	1.8												
図から式に表して、除法を活用して問題解決する。 たくや $4.8 \div 2.4 = 2$（倍） みさき $3.6 \div 2.4 = 1.5$（倍） ひろし $1.8 \div 2.4 = 0.75$（倍）	20	・商が整数になるたくやの場合から取り上げ、比較量÷基準量＝何倍という言葉の式に一般化できることを確認する。 ・答えを数直線図に当てはめて、自分の考え方がよいかどうか吟味できるようにする。 ・基にする数を1とみたとき、他の数はいくつに当たるのかを表していることを確認する。	比較量、基準量が小数のときも、何倍かは整数のときと同様に比較量÷基準量の除法で求められることに自ら気付き、数の範囲を整数から小数に拡張した除法のよさについて学習後の感想に書いている。										
適用問題に取り組む。	15	・似た問題に取り組むことにより除法のよさが感じられるようにする。	テープ図や数直線から具体的に数量関係をとらえて言葉の式を確認できるように支援する。										
学習後の感想を書く。	5	・学習後の感想を書き、自分の考え方を振り返ることにより、小数の除法を活用するよさに気づき、そのよさを味わえるようにする。											

小 数 の わ り 算

今日の勉強では
どんなことが
学べたかな？



5 年 組 名前 _____

月 日 p 9 6 何倍ですか？

() を求めるときは、小数のときも () を使う。

=

小数のわり算を使って何倍かを求めるやり方が分かりましたか。

分かった だいたい分かった 分からないところがある 全然分からない

ふだんの生活の中で何倍かを求めることがありますか。 ある ない

小数のわり算を使って何倍かを求められることは便利だと思いましたか。

便利だ 少し便利だ 便利ではない 何も思わない

その理由を書いてください。

今日の授業で思ったこと、気づいたことなどを自由に書きましょう。

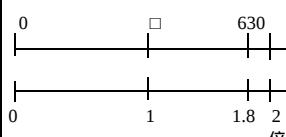
メモ書きでもかまいません。

見通し 3 にかかわる実践（第 10 時）

（１）ねらい 倍を表す数が小数の時も基準量は比較量÷倍の除法で求められるよさを味わう。

（２）準備 学習後の感想を書くプリント

（３）展開 ○おおむね満足 十分満足 努力を要する児童への手立て

学習活動	時間	支援及び指導上の留意点	評価項目
基の量を□として問題場面を図に表現して、基の数は幾つか考える。  $\square \times 1.8 = 630$	15	生後 10 日の犬の体重は現在 630 g で生まれたときの 1.8 倍です。生まれたときの犬の体重は何 g でしたか。 ・身の回りの問題を取り上げ、除法を活用して解決することにより、そのよさを味わえるようにする。 ・問題の場面を図に表現することにより、分かっていることと求めることを確実にとらえることができる。 ・乗法で立式すると、数量を題意のままに順思考で考えることができる。 $\square \times \text{何倍} = \text{比較量}$	関：○倍を表す数が小数のときも、基準量は整数のときと同様に比較量÷倍の除法で求められることに気づき、除法のよさについてつぶやいたり、または学習後の感想に書いている。 （観察、ノート） 倍を表す数が小数のときも、基準量は整数のときと同様に比較量÷倍の除法で求められることに自ら気づき、数の範囲を整数から小数に拡張した除法のよさを学習後の感想に書いている。 直線以外の図を用いたりして、小数倍の場面が把握できるようにする。
□を用いて立てた乗法の式から除法の式を導いて答えを求める。 $\square \times 1.8 = 630$ $\square = 630 \div 1.8$ $\square = 350$	10	・初めからわり算の式を立てる児童もいると考えられるが、□を使った式の考え方もできるようにする。	
適用問題に取り組む。	15	・似た問題に取り組むことにより除法のよさが感じられるようにする。	
学習後の感想を書く。	5	・学習後の感想を書き、自分の考え方を振り返ることにより、小数の除法を活用するよさに気づき、そのよさを味わえるようにする。	

小 数 の わ り 算

今日の勉強では
どんなことが
学べたかな？



5 年 組 名前 _____

月 日 p 9 7 もとにする大きさはいくつ？

() を求めるときは、□ を使って () の式に表
すと考えやすくなる。

$$\begin{array}{c} \square \times \text{何倍} = \text{比べる大きさ} \end{array} \quad \begin{array}{c} \bigcirc \\ \text{(もとにする大きさ)} \end{array} \quad \begin{array}{c} \square \\ \text{(もとにする大きさ)} \end{array}$$

$$\begin{array}{c} \square = \\ \text{(もとにする大きさ)} \end{array}$$

もとにする大きさを求めるやり方が分かりましたか。

分かった だいたい分かった 分からないところがある 全然分からない

ふだんの生活の中でもとにする大きさを求めることがありますか。 ある ない

小数のわり算を使ってもとにする大きさを求められることは便利だと思いましたか。

便利だ 少し便利だ 便利ではない 何も思わない

その理由を書いてください。

今日の授業で思ったこと、気付いたことなどを自由に書きましょう。
メモ書きでもかまいません。

見通し 3 にかかわる実践（第 11 時）

（１）ねらい 除数が小数の除法の作問ができる

（２）準備 学習後の感想を書くプリント

（３）展開 ○おおむね満足 十分満足 努力を要する児童への手立て

学習活動	時間	支援及び指導上の留意点	評価項目
既習事項を活用して、わる数が小数である除法の問題を自分で作る。	20	・初めから自由に作問を行うのは難しいので、まず式をよむ活動を取り入れる。式を与えて、その式にあった作問をするようにする。 ・作問は式、答えの見通しをもって考えることができるように、問題ができたならそれを図に表現し、式に表して自分で解く。 ・作問により、一人一人を評価する。 ・作問することから除法を活用して問題解決するよさを味わえるようにする。	関：○小数の除法の作問をしたり友達の問題を除法を活用して解決したりすることにより小数の除法を活用して問題解決するよさをつぶやく、または学習後の感想に書いている。 （観察、ノート） 楽しんで小数の除法の作問をしたり、友達の問題の不備に気付いたり、友達の問題を除法を活用して解決するなど様々な問題に取り組むことにより、小数の除法を活用して問題解決するよさを学習後の感想に書いている。
できた問題を友達同士で解き合う。	20	・友達の問題を解くことにより、一人一人を評価する。 ・できた問題を友達同士で解き合うことにより、除法を活用して問題解決するよさを味わう。	問題の場面を具体的に図に表現することにより、作問や問題解決できるように支援する。
学習後の感想を書く。	5	・学習後の感想を書き、自分の考え方を振り返ることにより、小数の除法を活用するよさに気づき、そのよさを味わえるようにする。	

小数のわり算

5 年 組 名前 _____

今日の勉強では
どんなことが
学べたかな？



月 日 小数 ÷ 小数になる問題を作ろう！

これからの生活の中で小数のわり算を使おうと思いますか。

積極的に使う 使う あまり使わない 全く使わない

生活をしている中で小数のわり算が使えると便利だと思いますか。

便利だ 少し便利だ 便利ではない 何も思わない

その理由を書きましょう。

[illegible]

自分で問題を作ったり、友達の問題を解いたりして学んだこと、思ったこと、気付いたことなどを自由に書きましょう。メモ書きでもかまいません。